

4～6月期の業況は改善

【特別調査】 - 「混迷する経済社会情勢と中小企業経営-コロナ、原材料価格高騰、海外情勢の緊迫化を受けて-」

【調査要領】
 調査時点：2022年6月上旬
 調査対象：西兵庫信用金庫お取引先103社
 調査方法：調査票を用いた面接による聞き取り調査
 調査企業数：103社
 調査票回収：103社
 調査対象地域：西播磨地域（宍粟市、相生市、赤穂市、たつの市、揖保郡、赤穂郡、佐用郡）

分析方法：D.I. (デフュージョン・インデックス) による分析
 景気の方角感を判断するために使う指数。各質問項目で、「良い」と答えた割合から、「悪い」と答えた割合を引いて算出する。

回答企業の業種別内訳

業種	回答企業数
製造業	32
卸売業	11
小売業	17
サービス業	19
建設業	19
不動産業	5
総計	103

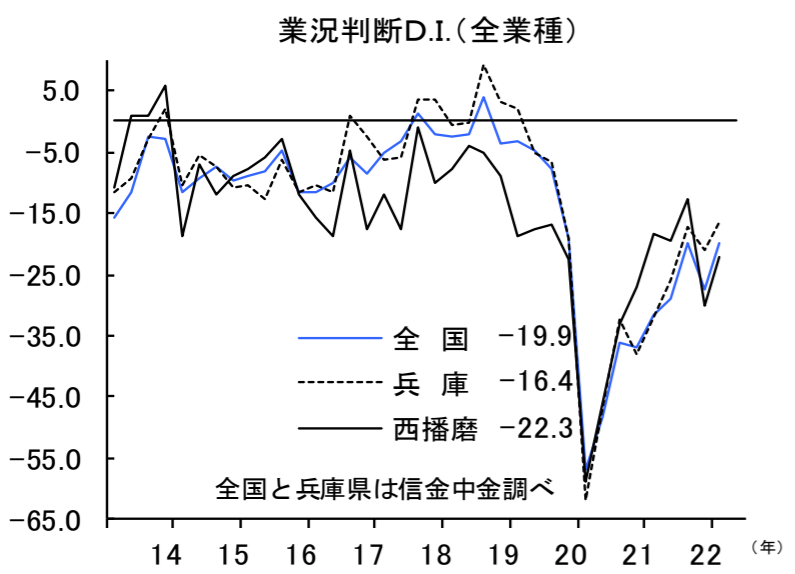
（例）

	良い	普通	悪い	合計
回答数	10	5	5	20

(良い)50% - (悪い)25% = (D.I.)25

全業種総合

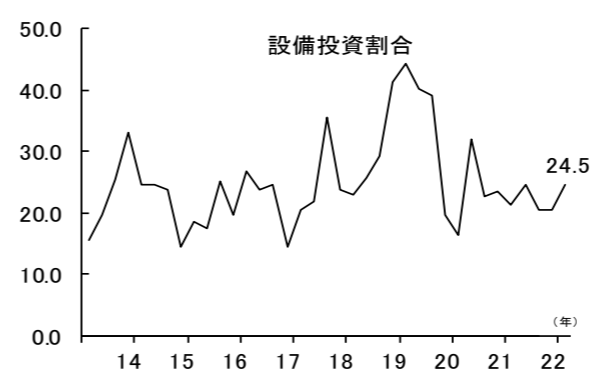
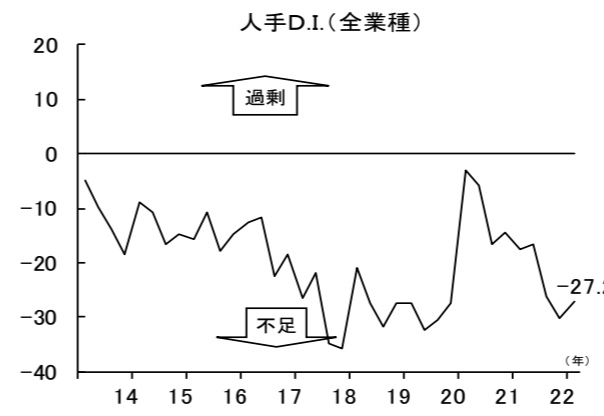
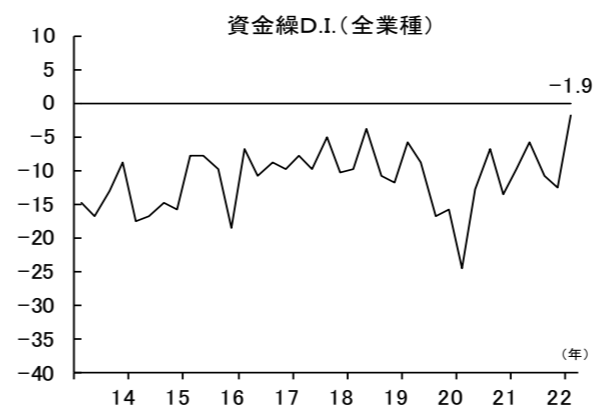
～景況感は改善～
 22年4～6月期（今期）の業況判断 D.I.は△22.3 と、前期比 7.8 ポイント改善した。前期に比べ業況が「良い」と回答した企業が 3.9 ポイント上昇し、「悪い」と回答した企業が 3.9 ポイント低下したことによる。前年同期比の売上額判断 D.I.は△6.8 と前期比 2.9 ポイント上昇。同収益判断 D.I.は△20.4 と前期比 3.9 ポイント低下した。業種別の業況判断 D.I.は、製造業、卸売業、小売業、建設業が改善した一方、サービス業は低下し、不動産業は横ばいとなった。
 全国の業況判断 D.I.は△19.9 と前期比 7.7 ポイント上昇、兵庫県では△16.4 と 4.8 ポイント上昇した。



【業種別天気図】 過去4四半期の業況判断 D.I.を平均して判定

業種名	2022年1～3月	2022年4～6月	2022年7～9月(見通し)
総合	☂	☂	☂
製造業	☁	☁	☁
卸売業	☁	☁	☁
小売業	☂	☂	☂
サービス業	☁	☂	☂
建設業	☂	☂	☂
不動産業	☁	☁	☁

天気アイコン：快晴、晴れ、晴れ時々曇、うす曇、曇、雨、大雨
 好調 ← → 低調



～販売価格判断 D.I.・仕入価格判断 D.I.は上昇～
 販売価格判断 D.I.は 31.1 と前期比 18.5 ポイント上昇した。仕入価格判断 D.I.は 58.3 と前期比 10.7 ポイント上昇した。

～資金繰り判断 D.I.は上昇～
 資金繰り判断 D.I.は△1.9 と、前期比 10.7 ポイント上昇した。業種別では、製造業が前期比 6.2 ポイント、卸売業が同 9.1 ポイント、小売業が同 11.8 ポイント、サービス業が同 5.2 ポイント、建設業が同 21.0 ポイント、不動産業が同 20.0 ポイント上昇した。

～人手過不足判断 D.I.は、人手「不足」感が低下した～
 雇用面では、人手過不足判断 D.I.が△27.2（マイナスは人手「不足」超）と前期比 2.9 ポイント上昇した。残業時間判断 D.I.は△1.9 と、前期比 3.9 ポイント上昇した。残業時間が「増加」したとする企業の割合が上昇したことによる。

～設備投資実施企業割合は上昇～
 設備投資実施企業割合（不動産業を除く企業のうち設備投資を実施した企業の割合）は 24.5% と、前期比 4.1 ポイント上昇した

～来期の景況感は今期実績比上昇の見通し～
 来期の予想業況判断 D.I.は△23.3 と今期実績比 1.0 ポイントの低下を見込んでいる。
 業種別の予想業況判断 D.I.は、小売業が今期実績比 17.7 ポイント、不動産業が同 20.0 ポイント上昇する見通し。一方、製造業が今期実績比 3.1 ポイント、卸売業が同 18.2 ポイント、建設業が同 21.0 ポイント低下する見通しである。

＜経営上の問題点＞
 経営上の問題点としては、「売上の停滞・減少」が 41%、「原材料高」が 37%、「人手不足」が 27%と多く、その他では「利幅の縮小」が 22%、「仕入先値上げ要請」が 19%となっている。

＜当面の重点経営施策＞
 当面の重点経営施策としては、「人材を確保する」が 39%、「販路を広げる」が 33%、「経費を節減する」が 27%と多く、その他では「情報力を強化する」が 19%、「教育訓練を強化する」が 15%、「宣伝・広告を強化する」が 13%となっている。

前回調査に引き続き、人手不足を解消するために人材確保に取り組む事業者が多い。

経営上の問題点

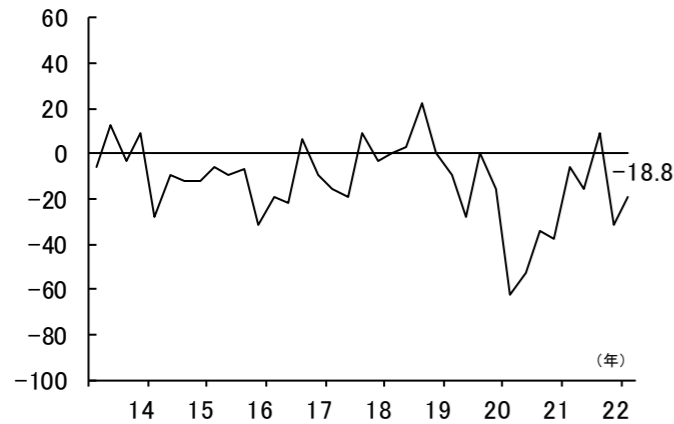
順位	全業種	割合
1位	売上の停滞・減少	41%
2位	原材料高	37%
3位	人手不足	27%
4位	利幅の縮小	22%
5位	仕入先値上げ要請	19%

当面の重点経営施策

順位	全業種	割合
1位	人材を確保する	39%
2位	販路を広げる	33%
3位	経費を節減する	27%
4位	情報力を強化する	19%
5位	教育訓練を強化する	15%
6位	宣伝・広告を強化する	13%

製造業

業況判断D.I.(製造業)



～製造業の景況感は改善～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 18.8$ と、前期比 12.5 ポイント改善した。

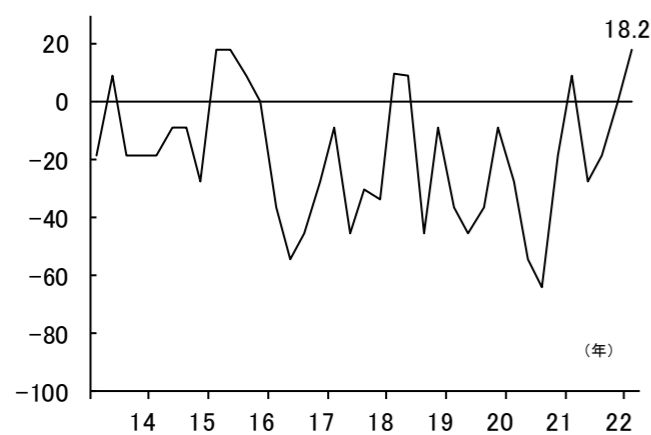
前年同期比売上額判断 D.I.は 3.1 と前期比横ばいとなった。同収益判断 D.I.は $\Delta 15.6$ と前期比 6.2 ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は 31.3%と、前期比 3.1 ポイント低下した。資金繰り判断 D.I.は 3.1 と、前期比 6.2 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 34.4$ と前期比 6.3 ポイント低下した。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 21.9$ と今期実績比 3.1 ポイントの低下を見込んでいる。

卸売業

業況判断D.I.(卸売業)



～卸売業の景況感は改善～

今期の業況判断 D.I.は 18.2 と、前期比 18.2 ポイント改善した。

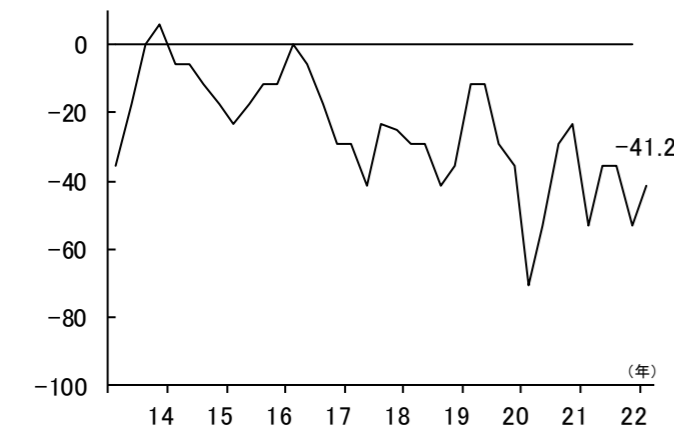
前年同期比売上額判断 D.I.は 18.2 と前期比 9.1 ポイント低下した。また、同収益判断 D.I.も 18.2 と前期比 9.1 ポイント低下した。

資金繰り判断 D.I.は 18.2 と、前期比 9.1 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 27.3$ と、前期比 9.1 ポイント上昇し、人手不足感が弱まった。

来期の予想業況判断 D.I.は 0.0 と、今期実績比 18.2 ポイントの低下を見込んでいる。

小売業

業況判断D.I.(小売業)



～小売業の景況感は改善～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 41.2$ と前期比 11.7 ポイント改善した。

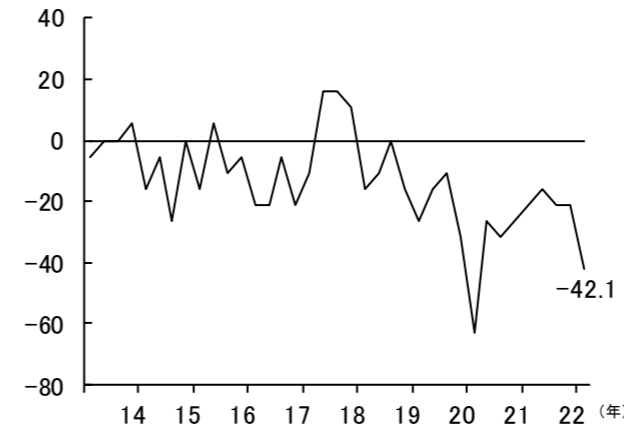
前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 11.8$ と前期比 17.6 ポイント改善した。同収益判断 D.I.は $\Delta 23.5$ と前期比 5.9 ポイント改善した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 17.6$ と、前期比 11.8 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 17.6$ と前期比 5.8 ポイント低下し、人手不足感が強まった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 23.5$ と、今期実績比 17.7 ポイントの改善を見込んでいる。

サービス業

業況判断D.I.(サービス業)



～サービス業の景況感は低下～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 42.1$ と、前期比 21.0 ポイント低下した。

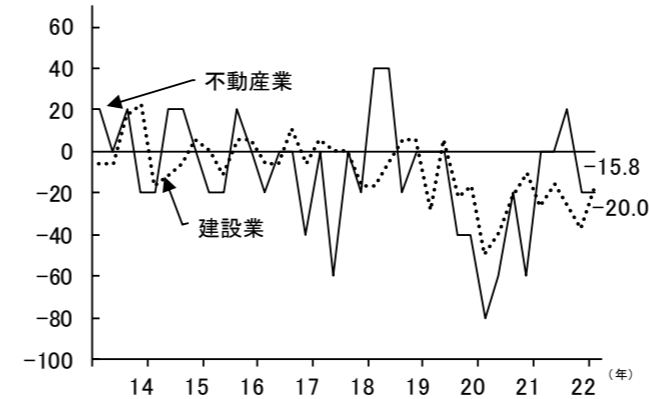
前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 5.3$ と前期比横ばいとなった。同収益判断 D.I.は $\Delta 21.1$ と前期比 10.6 ポイント低下した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 5.3$ と前期比 5.2 ポイント上昇した。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 31.6$ と前期比 15.8 ポイント上昇し、人手不足感が弱まった。残業時間判断 D.I.は $\Delta 5.3$ と、前期比横ばいとなった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 31.6$ と、今期実績比 10.5 ポイントの改善を見込んでいる。

建設業、不動産業

業況判断D.I.(建設・不動産業)



～建設業の景況感は改善～

今期の建設業の業況判断 D.I.は $\Delta 15.8$ と前期比 21.0 ポイント改善。前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 31.6$ と前期比 10.5 ポイント改善した。同収益判断 D.I.は $\Delta 42.1$ と前期比 10.5 ポイント改善した。受注残判断 D.I.は $\Delta 15.8$ と、前期比 26.3 ポイント改善した。資金繰り判断 D.I.は $\Delta 5.3$ と、前期比 21.0 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 21.1$ と、前期比 5.2 ポイント上昇し、人手不足感が弱まった。来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 36.8$ と、今期実績比 21.0 ポイントの低下を見込んでいる。

～不動産業の景況感は横ばい～

不動産業については、調査対象先の少なさを考慮する必要があるが、今期の業況判断 D.I.は $\Delta 20.0$ と前期比横ばいとなった。前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 20.0$ と前期比 20.0 ポイント低下した。同収益判断 D.I.は $\Delta 40.0$ と前期比 40.0 ポイント低下した。資金繰り判断 D.I.は 0.0 と前期比 20.0 ポイント改善した。在庫過不足判断 D.I.は $\Delta 40.0$ と前期比 40.0 ポイント低下した。来期の予想業況判断 D.I.は 0.0 と、今期実績比 20.0 ポイントの改善を見込んでいる。

調査員のコメント

製造業 : ウッドショックに加えウクライナ情勢により、露産アカマツが輸入されないことも価格上昇の要因。国産材を扱う事業者には追い風。
卸売業 : 夏以降、原材料の価格高騰の影響が懸念されるため、経費の見直しを進めている。
小売業 : 半導体不足により家電製品が品薄状態。業況は安定しているが、仕入の遅れにより売上の減少が懸念される。

サービス業 : 中古車市場では、露への輸出が多く、多少影響あり。原油価格高騰と海外情勢に左右されるため先行見通しは不透明。
建設業 : 住宅展示場への営業が困難な中、SNSを利用し、知名度、成約率向上に繋げている。
不動産業 : コロナ長期化、資材高騰等、消費者マインド低下が続く、顧客からの問い合わせが減少している。